

159-参-厚生労働委員会-2号 平成16年03月18日

※社会保障及び労働問題等に関する実情調査に関する報告

○辻泰弘君 委員派遣について御報告申し上げます。

去る十二月十日及び十一日の二日間、国井委員長、武見理事、藤井理事、森理事、遠山理事、有村委員、佐々木委員、井上委員及び私、辻の九名により、東京都及び栃木県の社会保障及び労働問題等に関する実情を調査してまいりました。

以下、その概要を御報告いたします。

一日目は、まず我が国におけるSARSに関する最新の研究成果や対策の現状を調査するため、東京都新宿区にある国立国際医療センターを訪問いたしました。SARS対策への取組状況について、国立国際医療センター、国立感染症研究所及び東京都医師会からそれぞれ説明を聴取し、意見交換を行った後、同センター内に設けられたSARS患者用の陰圧室等の施設を視察いたしました。同センターでは、SARSウイルスの感染予防、感染後発症予防等に向けた治療法の開発を進めるとともに、SARS対策委員会を設置し、SARSの流行状況に応じた準備態勢を整えているとのことでありました。

次いで、栃木県宇都宮市のとちぎ健康の森を訪ね、栃木県、栃木労働局及び栃木社会保障事務局から概況説明を聴取いたしました。

栃木県では、急速に進展する少子高齢化に対応するため、平成十二年に策定されたとちぎ二十一世紀プランの着実な推進を基本として、九つの重要施策を立て、保健・医療・福祉の総合的な展開を図っているとのことでありました。中でも、子育て家庭の経済的負担を軽減するため、未就学児及び妊産婦の医療費の自己負担分を助成するなど、良好な子育て環境作りに積極的に取り組んでいるとの説明を受けました。

また、現下の厳しい経済・雇用情勢に対応するため、知事を本部長とする雇用対策推進本部を設置し、就職支援、職業訓練等に取り組んでいるとのことでありました。特に新規学卒者の求人数が減少していることを踏まえ、早い段階からしっかりとした職業意識を身に付けてもらうため、中学生の職場体験、高校生のインターンシップ、大学生の学内就職ガイダンス等を実施しているとのことでありました。

足利銀行の一時国有化問題については、県としても、市町村や商工団体と連携して、全県的な金融相談体制の整備や県制度融資による支援等の措置を講じるとともに、労働局と連携を密にして雇用の確保に万全を期していくとのことでありました。

なお、説明聴取後、保育所の整備状況、若年者雇用対策、年金福祉施設の必要性等について意見交換を行いました。その中で県からは、年金福祉施設について、仮に譲渡の申入れがあったとしても受け入れることは困難であるとの意見が述べられました。

続いて、とちぎ健康の森の施設の概況説明を受けた後、関係団体である栃木県医師会、看護協会、老人クラブ連合会及び保健衛生事業団の代表者と意見交換を行いました。

とちぎ健康の森は、二十一ヘクタールもの広大な土地に健康づくりセンター、生きがいづくりセンター、リハビリテーションセンターが併設された総合施設で、平成九年四月にオープンしました。ここでは、高齢者の方の積極的な生きがい作りを支援するとともに、障害のある方への総合的、体系的なリハビリテーションの場を提供し、地域福祉の拠点として重要な役割を果たしているとのことでありました。また、各団体からは、とちぎ健康の森の利用者を増やす必要性、医療現場における看護体制を強化する必要性、市町村合併による助成金の削減等について意見が出され、委員との間で率直かつ有益な意見交換を行うことができました。

次に、年金改革の課題の一つである年金資金の使途についての知見を深めるため、年金福祉施設である栃木厚生年金休暇センター、ウエルサンピア栃木を訪問いたしました。併設されたテニスコート、老人ホーム等の施設を視察した後、施設を運営している厚生年金事業振興団から受託施設全体の運営について説明を聴取し、施設の建設や改修に関する費用、スタッフの雇用形態等について意見交換を行いました。一日目はウエルサンピア栃木に宿泊し、利用者として実際に施設を体験してまいりました。

二日目は、まず鹿沼市の特別養護老人ホームさつき荘を視察いたしました。さつき荘は、県内でもいち早くユニットケアを取り入れ、個人を尊重した介護に取り組むとともに、住宅街の中に開設されているという特徴を生かし、地元の小学校や老人クラブ等と一緒に野外活動を行うなど、地域との交流も深めているとのことでありました。

続いて、高根沢町のキリンビール栃木工場を訪問し、概況説明を聴取した後、パッケージ工程及び発酵・貯蔵タンク等を視察いたしました。本工場は、食品の品質や工場の環境への影響などに配慮するとともに、原料の水を得ている鬼怒川上流の藤原町に植林を行うなど、地域に信頼される工場を目指しているとのことでありました。平成十五年度には食品衛生優良施設として厚生労働大臣表彰を受けております。

次に、南河内町の自治医科大学及び附属病院を視察いたしました。自治医科大学は、医療に恵まれないへき地等における医療の確保及び向上を図るため、昭和四十七年に設立され、全国の都道府県が共同して設立した学校法人により運営されております。平成十五年度までに二千六百名を超える卒業生が医師となり、そのうちの四三％が全国各地のへき地、離島等で活躍しているとの説明を受けました。また、高度化、多様化する小児の診療ニーズに対応するため、県と連携してとちぎ子供医療センターの整備を進めており、平成十八年度にオープンを予定しているとのことでありました。

最後に、今回の委員派遣に当たりまして、栃木県及び訪問先の関係者の方々に特段の御配慮をいただきましたことを、この場をおかりして心から御礼を申し上げたいと存じます。

なお、栃木県の概況説明に際しまして、当委員会に対し厚生労働行政全般にわたる要望等がありましたので、これを本日の会議録の末尾に掲載していただきますようお願い申し上げます。

以上で、委員派遣の報告を終わります。